

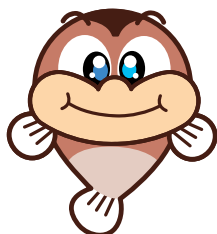
しまねっ湖



アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster*

全長7～13cm。自然豊かなため池や湿地、水田に生息しています。背中はやや褐色がかった黒色ですが、お腹は赤く、黒い斑紋があります。お腹の模様は一匹一匹少しずつ異なっています。また、お腹の赤色は、体に毒(フグの毒と同じテトロドトキシン)があることを外敵にアピールして、自分の身を守るためのものと考えられています。

(中野浩史)



No. **82**
2025.Summer

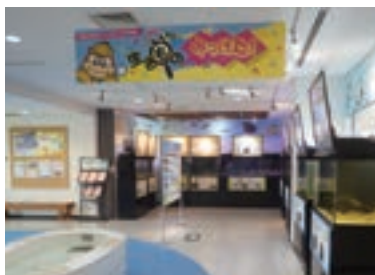
CONTENTS

第59回特別展報告	2
ゴビウスのなかまたち	3
来館者300万人達成/イベント報告	4



第59回特別展『観察! 発見! 生きものみつけた!』を開催しました。

水槽の中でくらす生きものたちを、一匹一匹じっくり観察してみたこと
があるでしょうか?
今回の特別展は、
「観察」をキーワードにふたつのテーマ
で開催しました。

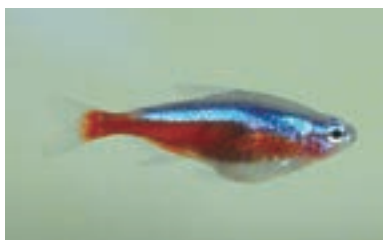


ひとつめは『生きものの違いを見分ける』です。近
縁の生きものが混泳する水槽で、種類を見分けるポイ
ントを解説し、意識して観察してもらっ展示をしまし
た。例えば、コイとフナが別の種類であることはよく
知られていますが、コイとフナが混泳する水槽で「両
者を見分けて下さい」と言われたら、みなさんは自信
をもって答えられるでしょうか。知識はあっても、実
際に見分けがつくかはまた別の話です。

ネオンテトラ(上)
とカーディナルテ
トラ(下)はとてもよく
似た魚で、わずかな
違いしかありませ
ん。もし別々の水槽
にいたら「なるほど
ね」で終わってしま
うでしょう。しか
し、両者が混泳し、
しかも一方がたくさ
んいて、もう一方は



熱帯魚の定番ネオンテトラ



ネオンテトラとの違いがわかりますか?

一匹しかいないとなれば話は別です。本当にいるか
確かめるには、じっくり観察するしか方法はありません。こうした観察を、もし面白いと思ってもらえ
た方がいたら、今回の展示は大成功だったと思ひ

ます。なぜなら、それが「科学の目」を養うことの
第一歩だからです。観察によって小さな違いに気づ
く。それが新しい発見につながるがあります。
実際、観察で気づいた違いがきっかけになって、そ
れまで一種とされていた生きものが別の種類に分か
れたこともあるのです。

ふたつめは『隠れている生きものをさがす』で
す。自然界では、周辺にある石や海藻などにそっく
りになることで敵からの目をあざむく「擬態」と呼
ばれる能力を持つ生
きものがいます。中
には全く別の種類の
生きものに擬態する
ものもいます。まる
で海底に転がってい
る石のようなオニダ
ルマオコゼなど、生き残るために身につけた擬態は
見事というほかありません。水槽をじっくりと観察
して隠れている生きものを探してもらいながら自然
が創造した生きものの不思議を感じてもらえたらと
思い展示をしました。



石そっくりなオニダルマオコゼ

じつは、特別展だけではなく、常設展示の生きも
のにも、よく似ていて見分けにくい種類がいたり、
隠れ上手な生きものや擬態のスペシャリストがいた
りします。そこで、特別展会期にあわせて、それら
の生きものを紹介する「ゴビウス・スタディ」を作
成して配架しました。水槽の中でくらす生きものを
ただ見るのではなく、小さな違いを見つけて見比べ
る。目の前の水槽でじっくり観察できる水族館なら
ではの新しい楽しみ方を、一人でも多くの方に知っ
てもらえる展示になっていたらとても良かったと思
います。

(佐々木興)



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま コノシロ

コノシロはニシン目ニシン科に属する魚で寿司ネタではコハダと呼ばれており、こちらの呼び方のほうが馴染みあるのではないのでしょうか？ おもに内湾から河口などの汽水域に生息します。宍道湖では、春頃になると群れを成してやってきます。塩分の薄い宍道湖に入ってくるのは、産卵のためと考えられ、お腹に卵のつまった20cm以上に成長したメスの姿も確認できます。その後、夏頃には10cmほどの若魚が見られるようになり、中海の方に下っていくと考えられます。

コノシロは常に動物プランクトンなどの小さな生きものを食べ続けています。飼育下では粉状の配合飼料を与えるのですが、一日数回の給餌では不足して痩せてしまうので、長期飼育にはこまめな給餌が必要な飼育の難しい魚のひとつです。

生きている姿を見ることができるのが水族館の良いところで、エサを与えると素早く遊泳しなが

ら口を盛んに開閉させて食べる姿は、躍動感があります。

コノシロは一見すると地味で何の変哲もない黄色みがかった銀色の魚ですが、光の下でひるがえった姿は一瞬、虹色に輝きとても美しいです。そんなコノシロの魅力にぜひ気づいて下さい。

(寺岡誠二)



光り輝く!コノシロ

淡水のなかま ヤリタナゴ

淡水魚と聞くと地味な印象を持つ方が多くいるかもしれませんが、日本には見た目がきれいで面白い生態を持った魚がいます。今回は、そんなタナゴのなかまである「ヤリタナゴ」を紹介します。

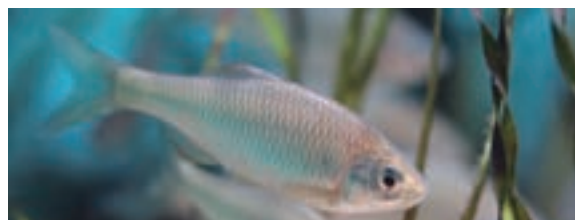
ヤリタナゴは、流れが緩やかな河川や水路、湖沼で生活しています。冬は灰色で地味な体色ですが、繁殖期である春～夏になると婚姻色が見られ、オスの頬や背びれ、しりびれは朱色になり、体は青緑色がかってきます。

また、この魚は変わった方法によって繁殖します。メスは産卵管と呼ばれる長い管を使ってマツカサガイなどの二枚貝の中に卵を産み、ふ化するまで守ってもらいます。

現在、この種を含む在来種のタナゴは河川改修や二枚貝の減少に伴って個体数が減少していて、近い将来、野外で見られなくなってしまう危険性さえあ



婚姻色が出た個体



婚姻色が出ていない個体

ります。水族館は、希少生物の保存と繁殖も役割のひとつとされているため、今後は人工繁殖などにもとりくんで、このきれいなタナゴをみなさんに見ていただける機会を提供し続けていけたらと思っています。

(木下拓実)

たくさんのご来館ありがとうございます

来館者 300万人達成



「おめでとうございます！300万人目のお客様です！」2025年3月23日(日)、館内にスタッフの声^{こゑ}が響きました。記念すべき300万人目のお客様は、雲南市からご家族でお越し^こいただいた植田様でした。植田泰介さんと仁さん、豪さんは年間パスポートの会員で、この日は開催中の第59回特別展「観察！発見！生きものみつけた！」やイベントを楽しみに、約半年ぶりに来館されたとのことでした。記念セレモニーは、館内の「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」の特設コーナーで行われ、植田様には花束やオリジナルビーチタオルをはじめとした記念品^{ぞうてい}を贈呈しました。

植田様は「突然話しかけられてびっくりしましたが、記念になったのでうれしかったです。緊張^{ちやう}しましたが、セレモニーに参加できたことも良い経験になりました。」と喜んでいらっしゃいました。

開館から23年11か月で、300万人の節目^{むか}を迎えることができました。これからも、多くのお客様に、島根の水辺の生きものの魅力を伝えられる館でありつづけられるよう、スタッフ一同努めてまいります。

(中野浩史)

イベント 報告

ゴールデンウィーク イベント ゴビウス いきものしりとり

4月26日(土)から29日(火)と5月1日(木)から6日(火)に、オリジナルステッカーがもらえるイベントを開催しました。展示水槽や説明をヒントに、展示している生きものの名まえでしりとりをしてもらいました。「楽しかった!」、「難しかった!」や「ステッカーかわいい!」など、たくさんの感想をいただきました。

(大山淳子)



ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.82

発行日/2025年6月15日

発行/島根県立宍道湖自然館ゴビウス

(指定管理者:公益財団法人ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 島根県出雲市園町 1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称:公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称:島根県立宍道湖自然館

動物取扱業の種別:展示

登録番号:第073102040号

登録年月日:2007年5月17日 登録有効期限:2027年5月16日

取扱責任者:中野浩史